

公益財団法人 8020 推進財団

令和 6 年度 歯科保健活動助成事業報告書 [抄録]

1. 事業名：EXCEL を活用した「【OF-5 準拠】オーラルフレイルチェック」の開発と介護予防事業における有用性調査
2. 申請者名：城戸 雅和
3. 実施組織：坂井地区歯科医師会
4. 事業の概要： 令和 6 年 4 月に「オーラルフレイルに関する 3 学会合同ステートメント」にて公開された「Oral frailty 5-item checklist：OF-5」は、専門職不在の場合でも評価を可能とした標準となるスクリーニングツールである。今回我々は Microsoft 社製表計算ソフト・EXCEL で動作する「【OF-5 準拠】オーラルフレイルチェック」（以下、OF-5 準拠チェック）を開発した。これは EXCEL の表計算処理を活用して多面的に OF-5 を補完するものである。本事業では、福井県坂井地区在住高齢者に OF-5 準拠チェックを適用し、その有用性、妥当性を検証し、さらに、オーラル フレイル発現の実態、および口腔機能低下発症との関連についても調査した。
5. 事業の内容： OF-5 準拠チェックは OF-5 と同じく自己評価によるスクリーニングツールだが、質問数を 5 から 20 に増やし、それぞれの質問内容が包含するオーラルフレイル起因要素数からスコア化して、数値化解析と統計処理を可能とした。これにより簡便な EXCEL 操作から、詳細なオーラルフレイル評価が可能となるものである。 OF-5 準拠チェックによるオーラルフレイル該当率評価において、OF-5 との有意な差はないと考えられた。加えて OF-5 に比して早期のオーラルフレイル徴候把握に有効であることが明らかとなった。また、65 歳未満から前期高齢者での該当者増加は、非該当（リスク有）から該当（軽度）への進行が主であり、前期高齢者から後期高齢者では該当（軽度）が中程度以上の該当者に悪化するのが特徴と考えられた。非該当（リスク有）から該当（軽度）へは平均残存歯数 20 本を境にして有意差の減少がみられ、8020 運動がオーラルフレイル発現予防につながると示唆された。OF-5 準拠チェックから算出されるオーラルフレイル発現率が、口腔機能低下症への進行指標となることも示された。これらのことから、OF-5 準拠チェックは客観的なオーラルフレイル把握に有用で、OF-5 を適切に補完できるスクリーニングツールであることが明らかとなった。
6. 実施後の評価（今後の課題）： OF-5 準拠チェックは該当率に OF-5 との有意な差はないが、非該当者からの早期オーラルフレイル徴候把握に有効と考えられ、また、オーラルフレイル発現率が口腔機能低下症への進行指標となる可能性も示された。これらのことから、OF-5 準拠チェックでの評価をより広く適用し、行政の介護予防事業での活用や歯科医院での口腔機能低下症診療の導入促進のため、広く普及に努めるとともに、さらなる改良を加える予定である。なお、同一集団でオーラルフレイル予防改善の取り組みを一定期間行った後の結果と比較検討する予定であったが、調査期間および対象施設選定等の事情により、次年度以降の課題としたい。